

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	833 青少年健全育成事業	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本 施策	37 子どもたちの健やかな成長を促す	目	04	青少年育成費
		細目	441	青少年健全育成事業
		細々目	51	青少年健全育成事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	451400		担当者
	名称	いがまち公民館		氏名
			連絡先	45 - 9122 (内線) 444

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	支所管内に在住の保育園児以上の児童生徒とその保護者及び地域市民	※対象件数
成果(どうする)	地域内のパトロールを行うことや声かけ指導を行うことにより青少年の非行防止に役立つ。青少年のレクリエーション活動の機会の提供や、地域の子どもへの体験学習の機会を提供することにより、子どもたち同士の連帯意識や青少年の健全育成のために役立つ。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H21 事業 内容	・いがまち青少年を育てる会に対する補助 ・夏季夜間パトロール、家庭教育講演会、体験教室、スキー教室の実施 ・子供の心を育む体験活動推進事業補助 ・28地域での青少年健全育成活動 ・青少年健全育成指導補助(声かけ指導-柘植駅を守る会)	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
子どもの心を育む体験活動推進事業	地域	回	目標 28	実績 28	28	28
			目標 28	実績 28		
いがまち青少年を育てる会事業回数	回	回	目標 5	実績 5	5	5
			目標 5	実績 5		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
体験活動推進事業参加者数	参加人数	参加人数	人	目標 900	実績 852	900	900
				目標 900	実績 850	900	900
青少年を育てる会事業参加者数	参加人数	参加人数	人	目標 450	実績 450	450	450
				目標 450	実績 450	450	450

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計 (A)	2,967	1,465	1,494	1,494				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0	0	0				
一般財源	2,967	1,465	1,494	1,494				
事業投入人件費 (B)	1.0 人	7,200	0.6 人	4,320	0.5 人	3,600	0.5 人	3,600
フルコスト(A)+(B)	10,167	5,785	5,094	5,094				

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
効果性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
効率性	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
達成度	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	○
効果性	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れしていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
効果性	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
効果性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い	○
達成度	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
効果性	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
効果性	【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。	○
効果性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	子どもの心を育む体験活動推進事業については補助金が削減されたことで、地区からの反対意見が多い。地域の子どもの育成は地域主体でという意識付けをしていながら、理解を求めていくがこれ以上の補助金の削減は難しい。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 子どもの心を育む体験活動推進事業については、補助金が大幅に削減されたことで各地区から反対意見が多く寄せられた。実績報告書を見るにつけ補助金への要望は、いがまの各地区の子ども育成会などが、子どもとの体験活動や行事を通じて熱心に青少年育成事業に取り組んでいたという表れではないかと思う。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	中 義晴
【方向性】	現状維持
【理由】	青少年の健全育成は地域、学校が一体となって、非行防止のためにも見回りや声かけ運動などを引きついで行っていく必要がある。
現時点における課題、その他	社会環境の変化に対応した取り組みを考えていくこと。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	23年度以降、研修会、講演会等については、早い段階で講師の選定を行い、より多くの方の参加が得られる方法を検討していく必要がある。いがまち青少年を育てる会への補助金については年々厳しくなる財政状況の中において、今後さらに地域の青少年健全育成により効果的、有益なものとなるよう取り組むべく事業内容を十分に協議しながら実施する。